

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第6号）、大豆作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第6号）、大豆作情報（第3号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.2	23.1	-2.1	29.2	26.3	-2.9	22.1	20.6	-1.4	81.6	90.5	111	18.8	6.9	37
	2	25.9	24.7	-1.2	30.1	30.3	0.2	22.8	21.5	-1.2	68.8	39.0	57	22.8	29.2	128
	3	26.6	24.1	-2.5	30.9	27.5	-3.4	23.3	21.6	-1.7	58.3	56.5	97	25.5	16.1	63

7月1~3半旬の気温は平年より低くなった。降水量は平年比88%でやや少なく、日照時間は平年比76%と短かった。

2. 情報田の生育状況（調査日：7月16日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	莖数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ (白石町須古)	本年値					出穂期は平年よりも7日早い6月26日。 現在、登熟期（糊熟期）である。
	平年値					
夢しずく (武雄市橘町)	本年値	50.5	397	9.2	38.1	草丈は平年より少し低く、莖数は平年より少し多い。葉齢は平年よりやや遅れている。葉色は平年より薄い。
	平年値	55.1	339	9.6	41.3	
	平年比(差)	92%	109%	-0.4	-3.2	
ヒノヒカリ (白石町新明)	本年値	41.6	311	9.5	37.5	草丈は平年より高く、莖数も平年より多い。葉齢は平年より進んでいる。葉色は平年よりかなり薄い。
	平年値	36.9	227	8.7	41.7	
	平年比(差)	113%	112%	+0.8	-4.4	
さがびより (武雄市橘町)	本年値	36.0	220	8.3	40.6	草丈は平年より低く、莖数は平年よりかなり少ない。葉齢は平年並み。葉色は平年よりやや薄い。
	平年値	40.5	288	8.6	41.8	
	平年比(差)	89%	77%	-0.3	-1.2	

注) 平年値はH21~H30の10年間の平均。なお、ヒノヒカリについてはR1より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

3. 一般田の生育状況

(1) セタコシヒカリ

平年より出穂が早く、現在登熟期（糊熟期）となっています。情報田の出穂期は6月26日で、平年より7日早いです。

(2) 普通期水稻（夢しずく、ヒノヒカリ、さがびより）

現在、多くの圃場で分げつ期を迎えています。6月上旬移植の水稻で有効茎が確保されている圃場では、中干しに入ってください。（1株あたり20～25本の分げつが確保でき、株が開張して圃場の半分より奥の株間が見えにくくなり出した頃が、中干しの開始目安）

中干しは田面に軽い亀裂が入り、足を踏み入れれば足跡がわずかにつく程度です。

近年、過度な中干しを行っている圃場が散見されます。過度な中干しは根が断裂し、生育不良につながります。

4. 今後の管理

(1) 水管理

セタコシヒカリ

引き続き間断灌水としますが、登熟（米の充実）を良くするため、収穫1週間前までは黒乾～湿潤状態を保ってください。

普通期水稻

浸冠水圃場は、いったん落水し、土壌に酸素を与えた後、新しい水を入れ浅水管理を徹底し、分げつの促進を図りましょう。

本年は、麦収穫後の麦わら打ち込みの量が多かったため、ガス発生田が多く見られます。硫化水素ガスや有機酸等が生成され、根に悪影響を与えるため、1～2日程度の落水により“ガス抜き”を行いましょう。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）が多い圃場では、深水で被害が助長されるため、浅水管理に努めましょう。なお発生が多い場合は、農薬（スクミノン、ジャンボたにくん等）を散布して下さい。

補植用の「置き苗」を残しているところは、いもち病の発生を助長するだけでなく、多くの病害虫の発生源となるため、すみやかに除去してください。

白葉枯病の発生が見られる圃場では、被害の拡大を防ぐため、朝夕、露のあるときは発病田に入らないようにし、多量の追肥を避けるようにする。また、オリメゼート剤粒剤等の農薬を散布してください。

(3) 雑草対策（普通期水稻）

初期除草剤処理後に水がオーバーフローしたり、散布時期が遅れ、雑草の取りこぼしが見られる圃場、またはコウキヤガラやクログワイ等の難防除雑草の発生が見られる圃場では、クリンチャーやバサグラン等の中後期除草剤での対応が必要です。（表1を参照）

オーバーフローした圃場の例

- ・24時間以内の場合 一般の薬剤製品が異なる一発剤の再散布。
- ・24時間以上の場合 中後期剤での対応とする。なお、中後期剤での対応の場合には、除草剤の成分によって使用回数が異なるので、使用に当たっては使用基準を厳守する。

表1. 中後期除草剤一覧

除草剤名	対象	使用時期	備考
クリンチャー 1和粒剤	ヒエ類	移植後7日~㍻I 4L 但し、収穫30日前まで	湛水散布(3~4日は湛水)
クリンチャー EW		移植後20日~㍻I 6L 但し、収穫30日前まで	落水または湛水散布(3~4日は湛水)。展着剤加用。
ヒエクリーン1和粒剤		移植後15日~㍻I 4L 但し、収穫45日前まで	湛水散布(3~4日は湛水)
バサグラン粒剤	広葉雑草	移植後15日~55日 但し、収穫60日前まで	落水~ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
バサグラン液剤		移植後15日~55日 但し、収穫50日前まで	
クリンチャーバスME液剤	ヒエ類及び 広葉雑草	移植後15日~㍻I 5L 但し、収穫50日前まで	
ハイカット1和粒剤		移植後15日~㍻I 3.5L 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3~4日は湛水)
ワイドアタックSC		移植後20日~㍻I 6L 但し、収穫30日前まで	落水~ごく浅く湛水散布 (展着剤無加用)

5. 大豆作情報

断続的な降雨により、大豆生産予定の大半の圃場では適期の播種作業が出来ていません。7月15日以降の晩播でも一定の収量を確保するため、播種作業では以下のことに注意してください。

また、大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなります。

(1) 種子の準備(種子消毒)

鳥害対策となるだけでなく、種子に付着した雑菌を殺して発芽率の向上、紫斑病対策に効果があるのでキビケン等を用いて必ず行ってください。

(2) 播種方法

雨が多い場合は圃場が乾くのをみて、播種を行って下さい。その際は浅播として下さい。また、播種後降雨が予想される場合は、出来るだけ畝立播種を行って下さい。

土壌が乾燥して降雨が期待できない場合はやや深めに播種し、必ず鎮圧を行って下さい。

播種を行う場合は 耕起済 土壌水分が高い場合は耕起は浅く耕す。

未耕起 粗耕しと播種・耕起の作業を同時に行う(2台のトラクタの組み作業)

播種後3日間の天気	播種の可否	播種深さ	その他
雨(50mm以上の予想)	播種しない	-	-
少雨(50mm以下の予想)	やや荒目に耕し播種	2~3cm	畝立播種
くもり, 雨(30mm以下)	普通に耕し播種	2~3cm	畝立播種
土壌が乾燥すると予想されるとき	細かく耕し播種	5~6cm	鎮圧する

(3) 播種量

播種時期が遅くなると、生育期間が短くなり一株当たりの節数(莢数)が少なくなるため、播種量を増やさないで収量は少なくなります。㎡当たりの莢数確保により、収量を確保するため下記播種様式に従い、播種時期に応じた種子の確保と播種量の調節をしてください。

播種区分	播種期	条間 (cm)	株間 (cm)	本数 (本/株)	1m落下 (粒)	播種量 (kg/10a)
遅播き	7/15~24日	70	15	2	13~15	5~7kg
		70	10	2	18~20	7.5~10.5kg
	7/25~31日	3条播き	15	2	13~15	

大粒種子のため播種量は増加

(4) 除草

播種前に雑草が多い場合は、非選択性茎葉処理剤(ラウンドアップ マックスード やプリグ ロックス L 等)の散布してください。特に、ヒロハフウリンホオズキが心配される場合はラクサー剤(乳剤または粒剤)を散布してください。

(5) 大雨対策

梅雨時期の水害により予想される被害

発芽率の低下は、播種直後のものが最も大きく、播種後24時間以内のものでは、半日の冠水で、発芽率は50%以下に低下する。

発芽揃の時期に当るものの被害は、発芽前のものに比べると小さいが、48時間以上の冠水は枯死株(疫病等)が著しく多くなる。

茎の褐変株やしおれ株が全体の3割以上ある場合は、再播種を行う。

梅雨時期の播種に当たっては、以下の点に注意してください。

(1) 梅雨の間の播種対策

排水溝の整備や暗渠、明渠の実施などにより圃場の排水に努め、適期播種できるように圃場の準備を行う。

降雨後には速やかに排水し、トラクタで耕起可能な状態になれば、天候を確認し、耕起して播種を行う。

天候が変わり易い場合は、荒耕起を行わず、1行程で浅く耕起して播種する。

不耕起播種機を導入されている地域では、不耕起播種機の有効利用も検討する。

(2) 梅雨明け後の播種対策

トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起のうえ、直ちに播種する。

(可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。)